

平成26年度第1回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成26年5月9日（金） 16:00～18:00

【場所】：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

【出席委員】：15名出席

古賀会長、杉光副会長、荒木委員、今坂委員、岩崎委員、佐竹委員、竹原委員、谷口委員、主海委員、鳥崎委員、新田委員、三好委員、水野委員、毛利委員、吉田委員

【議事要旨】

1・開会

2・新委員委嘱（竹原委員）

3・中央区長挨拶

4・職員紹介

5・議事

（1）平成25年度まちづくり事業等について（報告）

（古賀会長） 平成25年度まちづくり事業等（実績等）について事務局より説明をお願いします。

（事務局） 〈平成25年度1000万円のまちづくり予算を利用して実施した4つの事業と、区としてまちづくり関連事業として取り組んだ2つの事業について担当課より説明。〉

【質問・意見】

（新田委員） 校区カルタ製作事業は、実際にカルタを作ることまでを想定しているのか。

（まちづくり推進課） 中央区のカルタを、あいうえお順に46枚絵札と読み札を揃える事を計画していたが、その前に、まずは校区ごとのカルタを作っていきたいと考えている。

（新田委員） イラストは誰が担当するのか。

（まちづくり推進課） 次年度の予算を措置しており、基本的に写真などを提供していただくとその中から業者がイラストを描き起こすことを考えている。

（新田委員） 中央区の広報について写真、イラストが出ているが地域の方がつくられたものか。市民も写真など提供することができるのか。また、そのようなことを市民の方は知っているのか。

（総務企画課） 区だよりについては、校区に呼びかけて校区から提供していただいた写真がある。また、マガジンについても、各校区に平成25年度については、依頼したので校区から提供していただいた写真と、業者に制作していただいたので業者が取材に行った写真がある。職員が直接取材に行って取った写真もある。

（新田委員） 静岡では市民カメラマンがあり、市と提携してそういう方が写した写真を使っているということもあるが、そういう制度もあるのか。

（総務企画課） 6月に発行する中央区だよりについて今写真を募集中。4月から始まった事業で期間が短かったが、フェイスブックで募集をしているところであり、何枚か投稿いただいている。ホームページにも載せているのでフェイスブックを使っていない方についてはメールでいただいている。

（古賀会長） つながるマガジンの説明で25年度は区民編集委員養成を実施したとあるが、どのような研修でどのような人達が実際編集委員として、活躍されているのか教えていただきたい。

(総務企画課) 昨年度は1期、2期ということで2回募集を行なった。1期生は、公民館でチラシを配布したり、自治会に協力していただきメンバーを集めていただいた。2期生については、市政だよりで募集を行なった。1期生、2期生については、マガジンなどを編集しているライターやカメラマンなど、プロの方々の研修を受けていただき区民編集委員としての養成を行った。皆さんには、今も区民編集委員としてご活躍していただいているが、今回はマガジンの方ではなく区だよりで執筆していただくよう計画している。

(古賀会長) 行政だけでなく、市民の方も参画して活動させていただいていることを聞かせていただいた。ますます、「つながるマガジンのつながるわ」となられるよう期待していきたい。

(2) 平成26年度まちづくり事業等について(報告)

(古賀会長) 平成26年度まちづくり事業等について説明をお願いします。

(事務局) 〈平成26年度に2千万円のまちづくり予算を使って実施する予定の11の事業について、今後の予定等について担当課より説明。〉

【質問・意見】

(竹原委員) 区だよりについて今回各戸配布とのことだが、配布方法はどのような方法なのか。

(総務企画課) 配布については、業者に委託する予定。(見積合わせの結果、市政だよりの配布業者とは別の業者が配布する予定。)

(佐竹委員) 業者選定に関して、値段の安い高いというところで決められたとのことですが、ふれジョブの拡大支援事業については、パンフレット配布を受け入れていただく業者に組み合わせてお願いするということは難しいのか。

(福祉課) ふれジョブのパンフレットの活用は、企業と学校を回って制度周知等を行なっているが、そういう中で説明会等を行う時に使用するものとしてパンフレットを作成している。一般配布するパンフレットとしては想定していない。

(毛利委員) ふれジョブの対象者を小学5年生から中学生までという説明ですが、私たちが企画して今預かっているのは、高校2年生までを対象にしているので、確認していただきたい。全国展開でやっているふれジョブも、いろんな事業を営利目的でやるところも出てきているので、パンフレットを作成する時に原稿の段階で見せていただきたい。

(福祉課) ふれジョブ事務局と確認したところで小学5年生から中学生までと確認しているところであるが、再度確認をさせていただきたい。

(新田委員) 電子地図のことですが、水前寺の関係でマップづくりの担当をやっているが、とても使いやすそうなので活用させていただきたい。

(保健子ども課) 電子地図の町内割りをする時の線引きは、19校区に担当保健師(広報保健師)が業者と共に町内の微妙な線引きをして、出来上がった地域・自治協議会にCDでお渡しすることになる。いろんな形で皆さんに使っていただけるのではないかと考えている。

(新田委員) 町内ごとの電子地図なのか。

(保健子ども課) 熊本市の場合、町内単位で活動することが多いので町内単位の地図が欲しいとの要望がなされている。拡大すれば町内の地図、縮小すれば校区の全体が見えるものをイメージしている。自分たちが自在に必要なものを書き込んだり、書き換えたりできるものが欲しいとの要望があったので、そこまで作成できる業者を探している。

(水野委員) 県の GP マップをダウンロードして、自分たちで活用してどなたでもでも活用できるのかと思っていたが、そうではなく一部の方に校区、町内に CD ロムをお渡しして、その CD ロムから起動して使ってもらうということなのか。

(保健子ども課) ベースには GP マップを使う予定である。GP マップには校区割りしかないので、GP マップに町内の線引きをしたものを作ってもらうことを考えている。

(水野委員) それは誰でも使えるものではなく、CD ロムを渡された人でないと使えないのか。

(保健子ども課) そこまで具体的に地域の方に話をしてないが、地域の方たちが使う場合はコピーして使えんと思っている。コピー可能なものを作りたいと思っている。

(水野委員) 使いたい人の活用できる場があれば使っていけるということなのか。

(区長) 使用する人が誰でもいいというのではなく、事業に活用するからといって、全てをオープンにしていいかどうかは整理が必要である。地域福祉の向上や活性化に結びつくような使い方であるか等の判断をする必要はあると思う。

(毛利委員) 町内割りの電子地図に大変期待をしているが、町内については入り組んでいる。西区と中央区が入り組んでいるところもあり、この電子地図で落とし込みができたなら民生委員や自治会長等も、ぜひ利用したいと言っている。どんな形ができるのかわかったら教えていただきたい。

(谷口委員) 事業化支援センターの立場で 23 年度に 1 度地域提案計画として各事業化支援センターで担当校区のマップを作っている。これは、自治会長や民生委員と一緒に各町内割りのものを作成している。今年度、地域提案計画の見直しと言われているので、一緒に関わりながら作っていければと思っている。

(古賀会長) 慎重かつ有意義な成果につながるような形での基準づくりをお願いしたい。いつ頃出来上がる予定か。

(保健子ども課) 7 月頃に業者が決まる予定なので、9 月頃から地域を回りだして最低でも 3 回は地域の方と線引きのやり取りが必要と考えている。早いところで 1 2 月頃にできればと思う。

(岩崎委員) アクティブシニア増殖プロジェクトと、ぼうさいキャラバンは、メンバーは中央区民に限るのか。それとも全市的に、誰でもいいのか。

(古賀委員) それは参加対象者のことか。

(岩崎委員) 参加対象者のこと。

(区長) アクティブシニアに関しては、活動エリアが中央区ということで想定してあったので、中央区エリアでやりたいという人については、必ずしも中央区ではなく、どこにお住まいでも構わないのではないかと考えている。別の考え方があればご意見としてお聞かせいただきたい。ぼうさいキャラバンにつ

いては、校区単位の活動の場面をイメージしているので校区民を対象とした取り組みという形で整理させていただきたい。

(岩崎委員) おもしろい活動なのでできる限り広報などもやれたらと思う。

(古賀会長) 考え方として活動の場は中央区とするが、いろんな担い手については柔軟に考える枠組みをお願いしたい。昨年度からの議論の中で、アクティブシニア増殖プロジェクトについては、なかなかどう活動になるのか見えづらいところがある。そういう中で4回目の懇話会のときご意見いただいたと思うが、どういった方向に進められようとしているのか。鳥崎委員（作業部長）から考え方をご紹介していただきたい。

(鳥崎委員) 作業部会で協議、検討を重ねているが、その中で大きく違う方向性が2つでてきた。1つは中央区全体として、アクティブシニアの対象者になるような方々に出てきてもらって、何らかの活動をしてもらう。もう1つはそれぞれの地域で中高年の方々の力をどのように引き出すかという方向性である。その中で問題になった点として、中央区としてのプロジェクトを中心として考えるときに、1つ目は校区ごとの実情との整合性をどのように考えたらいいか。2つ目は、公民館や社協のボランティア講座などの自主講座が行われていて、そういう講座も同じような方々を対象に地域活動に参加してくださいというような呼びかけと教育を行っており、そういうところとの整合性をどうするか。3つ目の問題として、中央区としてのテーマをどのように設定していくのか。ターゲットをどうするか。その人たちをどのように集めてどのような研修をしていくのか。いろんな議論の中、まず26年度については、どちらかというと中央区全体として取り組んでいくということで「ボランティア養成講座」活動をつくっていく、実施していく核となるような人たちに要請をする方向性となり、ターゲットを絞った形となっている。その為に1つの活動テーマを呼びかけて、そのテーマに興味を持って集まってくれる人たちを対象にすることになり、そのことから「昭和カルチャー」というテーマを出している。いろんな媒体を使って呼びかけをするが作業部会の人々が広げていって、たくさんの方に声かけし最初の1回、2回を寄り合いという形で集まってもらっているいろんな話をしてもらう。それから編集の内容についても秋に実施をするということでやっていく。わかりづらい部分もまだあるがそのような方向性で話はまとまっている。

(今坂委員) 各校区の活動に70歳以上の方たちは出てこられるが、60歳代はいろんなイベントをしたときに見つけれない。校区の行事はだいたい土日か夜であり、昼間に仕事をしていても出てこれると思う。各校区でイベントや、いろんな行事をしている団体を覗いてみたりしたが、机上の研修などより地域の実情がとてもわかりやすいと思う。いろんなことが見えてくると思う。アクティブシニアの事業に期待しており、イベントの実行委員会というものにはして欲しくないと思う。

(水野委員) 何か形にしなければならないという思いがあって、分かりやすくイベントとしている。作業部会では研修の内容などが、ある程度固まらないと仕様書が作れないので、作れる様にしていくことが必要だと思っている。60歳代の方々がいらっしゃる、そういう方が寄り合いという形で集まり、呼びかけながらやっていく中で「昭和」について語り、みんなに発信を呼びかけ、その最終地点にイベントがある。という形で進めていけるのかも知れない。

(古賀会長) 思考錯誤をしながら半年間やっていただきたい。その中で、今年度には成果をある程度出していただくことが大前提の事業なので、その見通しをどうつけていくのか。そういった意味では中央区の社会的冒険みたいところで進めていただきたいと思う。第2回懇話会が7月末に予定されているので、その時にまた進行状況を教えていただければと思う。

(毛利委員) 今回は実験ということもあり、どこにいるか分からない60歳代で何かしたい人に対し、アクティブシニアをやっていく、そういうどこにいるか分からない60歳代の人というのは、市政日より

などを読んでも参加しようという気持ちにならないかもしれない。ならば、中央区がフェイスブックをやっている中でアクティブシニアという事業を広告していくことはできるのか。

(佐竹委員) フェイスブックでは、熊本市内に区切って 60 歳代というところで区切った広告をすることができます。しかも何千円位で出来るはずなので、そういうものを試してみるのも 1 つの手ではないか。

(古賀会長) 作業部会の中で、そういう情報を流していただければと思う。鳥崎委員、また今坂委員の発言でありましたように、自治会とか社協では全くこれまで発見できなかった人たちを探している。そういう人に届くような発信のしかたが可能なのかどうか。そのあたりを含め佐竹委員からもアドバイスをいただいてよろしいか。作業部会に出席することは、むずかしいかもしれないが情報を流しながら、思考錯誤の中でも面白い思考錯誤になるようなご協力をお願いしたい。

(岩崎委員) アクティブシニアの件で、委員の方たちは区とか校区に深く携わっている方が多いので、自分たちのまちのことを詳しく知っている方が多いと思いますが、中央区は單身の方などが多い所である。そういう方たちは、まちづくりなどに接点が無いし、入ってくるにも勇気があるのではと思っている。この事業はシニアが対象と思うが、並んでいる事業の中で参加者がある程度開かれているのが、この事業や広報関係の部分だけなのかなと思う。それ以外は校区ごとの事業になってしまうので、その校区の活動に普段携わっていない人が入るというのは、なかなか難しいことだと思う。そのきっかけとしてのアクティブシニアみたいなものがあって、校区の活動に繋がっていったスムーズに入っていけるような中間地点にこの活動が将来的になっていけばすごくいいと思うので、曖昧な部分というものを崩さないでいくべき事業ではないかと思う。

(今坂委員) 各校区の自治協議の会長さんにも入っていただき、こういう事業がありますということと言われるとまた広がっていくのではないかな。シニアだけではなく広く主婦にも分かるような発信をしていかなければいけないと思う。もっとメディアを使いテレビなどで印象が残るようにしていったらどうか。

(主海委員) 地域でまちづくりに必要なノウハウをもった人材を引き込む状態になっていない。中央地区の特色をきちんと出して、対象となる方々を探していく。校区ごとに人脈を通して、親しみを通して探し出していった方がいいのではないかな。中央区で人材銀行みたいなものができたら、それを校区に派遣したり紹介したりして、最終的には校区ごとのまちづくりに寄与できると思うので、みんなでプロジェクトづくりに頑張っていきたい。

(谷口委員) 若い世代の人を地域活動に繋がっていくような人材発掘をやっているが、今活動しているのが「健康」をキーワードに若い世代の方に接触しながらやっているのだから「健康」をテーマにいかしていくのもいいのではないかなと思う。

(三好委員) テレビ等（メディア）を活用した方がいいのではないかとのことだったので記者の立場から申したいのですが、メンバーを募集したいとの市政記者への投げ込み（情報提供）は行っているのですか。されていないのであれば、こまめに投げ込みをしていただければ、必ず取りあげる記者があると思うのでそういう活用を考えていただければと思う。

(杉光副会長) 「人材銀行」の言葉だけが一人歩きすると間違った方向に行きそうな感じがする。現実的には知恵を持たれたシニアの方が、地域の中にどうやって活動の場を見つけていくかを増やしていくかという事業ではないのか。熊本市も含め全国でも高齢化の社会でまちづくりの活動に関わっていけるのか。マスコミが対象とする人材がいるのか検討してみるが、今後作業部会で詰めていただければ、記者と一緒にアクティブシニアの話し合いの場に参加させていただくことも考えられると思っている。

(毛利委員) 最近学校区の学校応援団ができている。一新校区も小学校、中学校の学校応援団ができいて

て、今まで全く地域の活動に参加してなかった人が活動に参加してくるようになった。アクティブシニアにターゲットを絞るのもいいかもしれないが、若い人も参加している事例もあるので参考にしていたらと思う。

(古賀会長) そういう情報を積極的に作業部会や事務局にいただければ具体的に検討していただけたと思う。作業部会の開催について、事前に懇話会の委員の皆様にお知らせするというのを、今年度から始めたいと思っている。

(3) 平成 27 年度まちづくり事業提案募集について

(古賀会長) 平成 27 年度まちづくり事業提案募集について説明をお願いします。

(事務局) 〈まちづくり事業の事業提案は通年で受付しておりますが、平成 27 年度事業について、市政だより、ホームページ、チラシ等により 6 月 30 日期限で昨年同様に募集を受付る予定。〉

【質問・意見】

(新田委員) 確認ですが、基本的に中央区のまちづくり事業ということで、例えば中央区が主体だが、中央区とは違うところともコラボしてもいいか。

(事務局) 様々な事例が考えられると思う。最終的には、中央区の方々の住民福祉の向上に繋がるということであれば、それも有りうると思われるが、個々の内容により判断することになると考える。

(古賀会長) 大きな原則が、対象となる提案については「中央区まちづくりビジョンに掲げるまちづくりの方向性に沿った」というこの部分がポイントではないかと思う。

(4) その他

(古賀会長) 4 月 5 日、6 日に開催された水前寺まつりの報告を杉光副会長様からお願いします。

※ 杉光委員より報告

(古賀会長) 委員の皆様から何かご質問ご意見ございませんでしょうか。

※ 各委員会からの意見なし。

特にご質問ご意見もございませんので、これをもちまして議事については終了させていただきます。